

『子どもを伸ばす言葉 実は否定している言葉』

天野ひかり Discover 2023.3.

タイトルどおり、子どもに働きかける言葉の大切さを、著者は押してくれます。学校教育にも家庭教育にも、とても大事な示唆が数々ありました。事例も多々紹介されています。

◆事例

「やりたくない」に対して

NG「わかった、もうやらなくていいよ！」

OK「そうか、じゃあ、一緒にやってみる？」

ゲームをやめない子に対して

NG「ゲームばかりしていると、ばかになるよ」

OK「うまい！ クリアしたら、一緒に〇〇しようよ！」

練習などを始めない子に対して

NG「練習しないとゲームはダメ！」

OK「練習いつ始めるの？ ママは〇〇を始めるよ」

◆「親の言うことを聞かせる言葉」から、「子どもの判断を認める言葉」に変える。つまり、「こうすべき」という親の価値観から、子ども一人ひとりを「そのまま認めること」への転換。そのまま認めることは、自己肯定感を育てる。

◆子どもは、お母さんお父さんに振り向いてほしいので、振り向いてくれたことを「もっと」するようになる。(中略) しかられても振り向いてもらえるほうが、無反応よりうれしい。叱られる以上に、親の無反応に子どもは傷ついている。